

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第137版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで



神家総本家 聴福庵

## 『古き良き』にあるは『愛』



『古き良き』が伝わりますように。

むかしの田んぼ 新嘗祭に参加させていただき、収穫祭から2度目の私たちをカグヤの皆様や藤崎農場、ご参加の方々が温かく迎えてくださり感謝いたします。  
素の自分たちを受け入れてくれる家族のような安心感に包まれ、そこはいつも心地良い空間です。五穀豊穡を祈り玉串を捧げ、ひとつひとつの意味を教えてください、日本文化と伝統行事の奥深さ、繊細さを知りました。自然と共存して生き、生かされているのだということを感じた時間。広い空の下で宮司様の祝詞をいただくと、吹く風



供物ひとつひとつの意味を  
教えていただきました。

に目に見えない存在を感じ、土からは大きなパワーが伝わってきました。足元には刈ったお米の穂先（ひこば）えといわれる稲、そこに鮮やかなピンク色のジャンボタニシの卵が付いていて、無農薬で生きた植物や生物もまた、その心地良い空間でエネルギーに満ちていました。  
炭火で釜戸炊きしてくださった新米を、古き良き削り器を使った薫り高い鯉節でおむすびにしてパクリ。一瞬にして笑顔になり、皆さんと目を合わせ、幸せを分かち合いました。  
『日々を丁寧に暮らす充足感』『手間い愛』そんなことを思い巡らせ帰園しました。農場でいただいたヘチマの種とたわしで、園児に『古き良き』を伝えます。（認定こども園つばさ 森田・吉岡）

## 保育の魅力

先日、鹿児島市で「保育の魅力を発信し、人材不足解決につなげよう」と保育を紹介するイベントが行われ、保育士による絵本の読み聞かせやダンスなどを、親子連れら約千人が楽しまれたそうです。  
イベントには40ほどの園の紹介パネルが展示されたそう  
で、参加園のひとつでもあるしらゆきこども園の原田園長にお話を聞きました。



パネルから日頃のそのままの輝きや楽しさが伝わってきます。

自園の「目指す子ども像」となる「感情豊かな子ども」「自分で考えて行動する子ども」「他人の気持ちがわかる子ども」「感謝の気持ちを忘れない子ども」に該当する保育シーンの写真を選定しコメントを入れたパネルづくりは、大変ではあったものの「どっちの写真がいいかな？」など職員同士で話し合いながらつくったプロセスは、とても楽しく学び深い時間になったそうです。  
更に、「目指す子ども像」「大人像」と考えるこちらの園では、「今度の職員研修で、子どもではなく大人である自分たちが該当する写真も同じ

ように選んでみたり話し合ったりしてみるのもいいね」とアイデアも出たようで、そんな風に、自分たちが目指す理想、保育を意欲的に追求していく姿勢は、きっと子どもたちも憧れるイキイキとした姿のように感じました。「保育の仕事したい！」「こんな園で働きたい！」と思える魅力は、理屈よりもそこにいる先生たちや子どもたちの楽しそうな様子で感じられるものなのかもしれません。  
私たち子どもにも携わる仕事だからこそ、なおさら「楽しく働く」ことを大事にしたいと感じました。

## 身近に感じる

「毎月新聞と一緒に送ってもらっている室礼の記事は、今月はいつ頃送ってもらえますか？」香川県の丸亀ひまわりこども園様からのそんなお電話にお話をお伺いすると、園行事の「もみじ茶会」の床の間の飾りつけの参考にしたことのお話。  
本来は7月に七夕にちなんだ床飾りを仕立てるのだそうですが、コロナでその行事が中止になってしまい、秋のこの時期に初めて開催することになったとのことでした。

思い出し、身近なものでも床の間を整えられるのではとそれを参考に試してみたそうです。そして実際に室礼をしてみると、わざわざお金をかけなくても十分に時節を味わえる場を演出できて、保護者の方にも我が子の成長を感じてもらえたのではないかと思います。

ただ園にある床の間を彩る掛け軸や花器、小物などはすべて夏のもので、秋の季節に合わせてしようとすると、それらを買う直さなければなりません。そうなる予算的にもかなり掛かってしまうので一旦はやめようかとも悩んだのですが、弊社の室礼の記事を

日頃から暮らしに根差した日本の文化から尊い学びを得ながら日々試行錯誤している私たちですが、こうして少しでもお役に立てたことはこの上ない喜びです。そうした何気ない皆様のお声がけに心より感謝申し上げます。



楽しみに読んで頂き感激です！



七五三の室礼の前に、子どもたちが写真撮影をするのだそうです。



カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 一年の感謝を込めて



さりげなく来年の干支も隠れています。

例年この時季になると、お客様やお世話になった方へクリスマスカードをお送りしていましたが、日本の四季や文化に沿った年賀状やおせち料理の伝統を子どもたちに伝承していきたいとの想いで行事を見直し、初めて年賀状という形でお送りすることとしました。

会社として年賀状をお送りするのは初めてなので、なぜ年賀状を出すのか、なぜおせち料理を食べるのか、ということが伝わるデザインについて

## 大寒へ向けて

「冬至」は一年で一番太陽の出ている時間が短い日。そしてそれから45日後の「大寒」がいちばん寒い時期と言われています。冬至は寒さに備えて体を温める行事でもあるそう、柚子湯や小豆、唐辛子、（明治以降は南瓜も）が重宝されてきたといえます。ということで、冬至に間に合うように黄色い完熟柚子と赤い唐辛子を使って柚子胡椒作りを妻と子どもたちと行いました。

大量の柚子の表皮を剥く作業や唐辛子のヘタを取る作業は単純作業だからこそ、おしゃべりをしながら楽



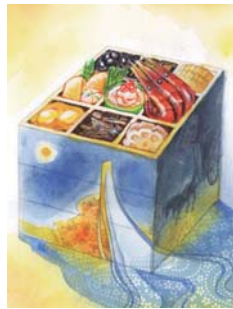
寒さを乗り越える準備です。



柚子は香りと黄色の色、唐辛子は赤色が邪気を祓うとされています。

しく過ごす事ができて何だかとても幸せな時間でした。出来上がった柚子胡椒を小さな瓶に詰めて、クルーのみんなの分や、地域の知り合いの家族の分も準備完了です。

寒い冬を乗り越え、皆さんが健康で元気で過ごせますように。そして来年は一緒に柚子胡椒作りも出来たら幸せだなあと思っています。



数の子は「子孫繁栄」、田作りはイワシが畑の肥料だったことから「五穀豊穡」、黒豆は「まめに動きまめに暮らせるように」のように、それぞれに願いが込められています。

て話し合いを重ねました。長年お世話になってるイラストレーターさんやデザイナーさんからも伝わりやすさや見せ方などたくさんアイディアをいただき、かぐや姫とおせち料理が融合した物語となりました。

最近では年賀状離れやおせち料理離れが進んでいるといいますが、新しいものを取り入れる時にはそもそも由来を知っているのとそうでないのでは伝承のされ方が変わってきてしまうように思います。

子どもたちに本物を伝承していくためにも、文化にこめられた願いを知り、一緒に体験することを大切にしていきたいと思えます。

## 日本の智と慧

### 大掃除

年末になって気になることのひとつに「大掃除」があります。この風習は「宮中の煤払い」を由来とし、一年の間に積もった煤を払って、改めてお正月の神様をお迎えするための大事な行事であると言われますが、これがなかなか手が付けられませんが、いつも義務感に襲われるばかりで、できれば手っ取り早く済ませたいと思ってしまうます。

「大掃除」はいわば今年最後の掃除ですが、日本人はこの「掃除」という時間を重要視し、その中に大切なものを感じてきたようです。

その一つは、「元の美しさに戻す」という発想です。これは言い換えると「元の綺麗さや高貴さを知っている」ということです。この「本来の美しさ」を知らない「基準」がわかりませんから、改めて見直しておきたいところです。

二つ目は、「感謝報恩の心」です。これは「使わせてもらった場やモノの徳に報いる」ということでもあります。「汚れたからきれいにする」とも「次に使うためにきれいにしておくこと」も大事なことです。たとえそれっきりで捨てるもので

あっても、使わせてもらったご縁に感謝し、きれいにしてその徳に報いる心は持つておきたいものです。

三つめは、掃除という過程を通して「過ごした時を振り返る」ということです。これは、「経験を体験として心に刻む時間」でもあります。人は「実践」することによっていろんなことに気づきます。その気づきを一つひとつきちんと「智慧」に変えることが次に繋がります。仕事に追われていると、さっさと片付けて少しでも早く次の仕事に取りかかりたいと思ってしまうますが、この「振り返り」の時間を持つことが、自分のいのちの使い方を高めることになり、仲間と一緒に振り返る時間は貴重です。

慌ただしさに流され、つい要領よく片付けてしまいたくなりますが、「行事」に込められた「日本人の智慧」と豊かさの仕組みを味わいながら今年をきちんと締めくくる、そんな機会になればと思います。

今年からカグヤでは、12月中旬に「煤払いの日」を設けることにしました。「暮らしフルネス」の一環として、仲間と一緒に今年を振り返る時間にしたいと思っています。

今号から隔月で「日本の智と慧」を担当させていただきます。宜しくお願いたします。（藤堂昌恒）

## 編集後記



今年の冬至は12月21日!

記事にもあります通り「暮らしの行事」は日々の生活に潤いを与えてくれることを感じます。イベントは軒並み中止の報道を耳にしますが、先生方からは、「中止ではなくどうしたらできるか?」というお話をお聞きし、その内容を新聞に掲載させて頂いてきました。子どもたちへの

想いや成長への願いはどんな時も変わらず抱き続けられる先生方のように、私たちも今出来ることはないか、またこれまでを変えるチャンスと捉え模索する1年でもありました。整理整頓、感謝の心、仲間と過ごした1年を振り返り、来年を迎える準備を行いたいと思います。（奥山）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-882  
fax.03-6733-7722

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

